

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690800018
法人名	株式会社 みさき
事業所名	グループホーム みさき
訪問調査日	平成21年5月25日
評価確定日	平成21年6月24日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4690800018
法人名	株式会社 みさき
事業所名	グループホーム みさき
所在地	出水市荘850-3 (電話) 0996-64-2780
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年5月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(5月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	友愛クリニック 北園歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鶴の渡来地に近く、のどかな田園風景が広がる平野の中に建てられた真新しいホームである。敷地内の畑に加えて、隣の農家からも畑の一部を借りて野菜を育てている。近所の方が手作りのおやつや野菜を持って来て一緒にお茶を飲んでくださるなど、地域の皆さんとの交流も始まっている。毎月発行される新聞にはご家族からの寄稿もあり、家族会の活動も含めて、ホームとご家族が協力し合って利用者の暮らしを支えている。職員は、一日の中で必ず全ての利用者に声をかけるように努めており、「嬉しい」と感謝される介護を目指して熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が、初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>スタッフ会議で自己評価項目を読み上げて、職員全員で話し合いながら評価した後、管理者がまとめ上げ、再度職員に確認をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、利用者ご家族をはじめ、公民館長、民生委員、行政担当者などが参加し、ホームの活動状況や行事について報告を行い、質問があれば詳細を説明するとともに、あらゆる立場からの意見や要望を受けている。出された意見や要望については迅速に対応策を検討して、サービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議にご家族が参加しており、面会時には声かけしてコミュニケーションを図りながら要望や意見を聞きだすように努めている。また、家族会が組織されており、お互いの交流を通して出された意見を家族会のリーダーが取りまとめることで、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており、回覧板や公民館長からの連絡で地域の行事情報等を集めている。ホームの隣に畑を借りており、近隣住民にボランティアで草刈をしてもらっている。また、農作物の差し入れをいただいたり、ホームに立ち寄ってお茶を一緒に飲むなど、地元の人々との交流を積極的に行っている。</p>

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	嬉しいと感謝される介護を目指して、職員にも浸透しやすい独自の理念を作り上げており、具体的な目標も掲げている。	○	現在の理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割が具体的に読み取れるように、さらに検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づくケアの目標を食堂ホールに掲示しており、いつでも目にする事ができる。二ヶ月毎のスタッフ会議では、理念に基づいた対応ができてきているかを振り返りながら、お互いに確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、回覧板や公民館長からの連絡で地域の行事情報等を集めている。ホームの隣に畑を借りており、近隣住民にボランティアで草刈をしてもらっている。また、農作物の差し入れをいただいたり、ホームに立ち寄ってお茶を一緒に飲むなど、地域の人々との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議で自己評価項目を読み上げて、職員全員で話し合いながら評価した後、管理者がまとめ上げ、再度職員に確認をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者ご家族をはじめ、公民館長、民生委員、行政担当者などが参加し、ホームの活動状況や行事について報告を行い、質問があれば詳細を説明すると共に、あらゆる立場からの意見や要望を受けている。出された意見や要望については迅速に対応策を検討して、サービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、地域包括支援センター職員や市の担当者へ、状況報告や相談を行っている。また、運営推進会議以外にもホームを訪問して、利用者の暮らしぶりを見もらう機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行される新聞「ひなたぼっこ」には、ホームでの活動内容や行事計画、ご家族からの記事などが掲載されている。また、新聞以外にも、利用者の状態や具体的な活動内容を電話で詳しく報告している。金銭出納帳は、面会時の入金の際に確認していただいている。	○	金銭出納帳を確認していただいた際は、押印やサインなどの方法で、確認の証跡を残すことを検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族が参加しており、面会時には声かけしてコミュニケーションを図りながら要望や意見を聞きだすように努めている。また、家族会が組織されており、お互いの交流を通して出された意見を家族会のリーダーが取りまとめることで、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、離職が最小限になるように努力している。職員の交代があった場合も、新しい職員が利用者や馴染むまで研修期間を設けるなど、段階を経ながら関わることでケアの継続性を保っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の経験や立場にあわせて外部研修を受ける機会を作り、スキルアップのための支援、協力も行っている。研修に参加した職員はホームで報告会を行っており、スタッフ会議の中では勉強会を実施しているが、段階的に育成するための研修計画は今のところ作成されていない。	○	職員の立場や経験、習熟度等に応じて、段階的に育成するための計画を立てて取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加しており、他の事業所からの実習を受け入れたり、こちらからも実習に出向いたりしながら、お互いにサービスの質を向上させていくための取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来ていただいたり、病院や自宅へ面会に出向くなどして、徐々に馴染めるように支援している。また、利用開始後に帰宅願望が強い場合は、自宅への外泊やご家族に宿泊してもらうなどして、安心感を持ってもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	慣わしや風習、歌や料理について学んだりアドバイスをもらうなど、利用者から教えてもらう機会を多く設けている。また、家事を手伝っていただきながら、支え合う関係を築くように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを特に重視しており、職員全員が、毎日必ず全ての利用者に対話するように指導しており、言葉や表情から希望や意向の把握に努めている。また、職員からの気づきを基に検討会を開き、結果は申し送りノートに記載して情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の要望を聞き、課題になることは職員を交えたミーティングで話し合った上で、具体的なサービス内容を盛り込んだ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しに加えて、状態変化時や本人およびご家族の要望に応じて、その都度見直しを行っている。かかりつけ医や専門職からのアドバイスを取り入れて、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診同行や外出支援を行っているほか、希望に応じて、訪問マッサージや訪問理美容の受け入れも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診の支援を行い、ご家族が付き添えない場合には看護職員か管理者が同行している。その際、日々の観察事項についての情報を提供し、受診結果はご家族へ報告している。日常的にも、かかりつけ医へ相談や報告を行うことで緊密な連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、ご家族の意向や医師の意見を聞きながら話し合い、職員も含めた関係者全員で方針の共有を図っている。状態変化時には、その都度、ご家族に意向の再確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	開設者および管理者は、利用者の尊厳や羞恥心への配慮について気付いたことを、口頭や申し送りノートにより職員全員に周知するなど、日々のケアを通して学ぶ機会を設けている。記録類など、個人情報の管理は適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや気分、健康状態を尊重して、それぞれのペースで起床・就寝および食事ができるようにしている。また、利用者が日課としている散歩の支援など、意向に沿った生活の支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で利用者と一緒に収穫した野菜や、近隣の方々から差し入れていただいた季節の食材を採り入れている。下膳や後片付けは、力量に応じて手伝ってもらっており、穏やかな雰囲気の中で職員とともに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の午前中に入浴日を決めてはいるが、利用者の状態により柔軟に対応している。検温表に入浴実施日を記録しており、申し送りによって職員間で入浴状況を把握している。ご家族の同行で近くの温泉に出かけるなど、入浴を楽しめる支援をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や畑仕事、掃除など、力量や経験を活かしてできることを役割分担しながら支援している。また、かるた取りやトランプ、計算ドリルを行ったり、ご家族を招待してバーベキューをするなど、気晴らしや楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、スーパーへの買い物、ご家族との外出など、なるべく多く戸外に出かける機会を作り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠されておらず、利用者は広々とした敷地内を自由に散策できる。交通量の多い国道に面しているため、門扉を閉めることはあるが、利用者が外出されそうな場合は同行して散歩を楽しむなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、消火、通報、避難の訓練を全職員が参加して行っている。近隣の住民や隣接する温泉の従業員にも協力を呼びかけており、校区消防団にも協力を働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	開設者が管理栄養士であり、栄養バランスを考慮したメニューが作られている。利用者の状態や希望に応じて、メニューの変更や刻み食、お粥などの料理形態にも柔軟に対応している。また、一日の水分摂取量の目安を定め、食事摂取量とともに検温表に記載し、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や大きな窓からは自然の光が豊富に入り、換気も十分に配慮されている。リビングや玄関には季節の花々が飾られており、周囲の田園風景を眺めながら季節を感じる事ができる。また、ソファやベンチが随所に置かれ、畳のスペースもあるため、利用者は思い思いの場所で居心地よく過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やテーブル、テレビや箆笥、観葉植物など、自宅で慣れ親しんだ物を持ち込んでいただいている。ご家族の写真や手作りの作品を壁に飾るなどして、居心地よく過ごせる居室作りに努めている。		